



「伝道に燃える教団・教会」

ルカによる福音書 第24章 32節

越谷教会牧師 石橋秀雄

第38教団総会議長・伝道推進室長

私は、第38回総会で総会議長に再選された時、議場で「伝道に燃える教団へ」との訴えをした。この訴えを総会でなした時、ルカによる福音書24章32節の御言葉が念頭にあった。

暗い顔の二人の弟子に復活の主が現れて、共に歩まれる。彼らには復活の主が共に歩まれている、目が遮られて、主に気づけなかった。

彼らの顔は暗い。主が十字架で殺されて、墓に納められた、これ以上の悲しみはない。

私たちの生活の中で、私たちの希望と喜びをもぎ取られる経験をする時、私たちの生活から明るさが奪われる。そして、教会の中でも教会を揺り動かすような問題の中で、教会が暗くなる。

この時、復活の主が共に歩いて下さっているのに、この主に気づかない。

暗い顔の二人の弟子は、後になって復活の主の顔に気づかされる。

主が食事の席につき讃美と祈りをしてパンを裂いて二人に弟子に渡すと二人の目が開け、イエスだと分



Mikotoba

かった。

「二人は、『道で話しておられるとき、また聖書を説明してくださったとき、わたしたちの心は燃えていたではないか』と

語り合った。」(32節)とある。後から気づかされるのだ。それほど、静かに、ジワジワと燃えて行く。

私たちの生活でも、教会にあっても暗い顔をして生活せざるをえないことがある。しかし、御言葉が聞かれ、聖餐に与る礼拝を奉げ続ける中で、御言葉の確信が与えられ、静かにジワジワと燃え上がり、「あの暗い顔をしていた時から、燃え始めていた」ことに気づかされる。

日本基督教団は第31回教団総会において「日本基督教団は21世紀に向かって伝道の使命に全力を注ぐ決意表明」をなした。

その後も教団の伝道の衰退という深刻な現実の中で、「伝道推進室」が誕生し「伝道に燃える教団へ」との訴えがなされている。

「わたしたちの心は燃えたではないか」

あの時から、伝道決議をなした、その時から「教団の教会が燃え始めたではないか」、そしてゆっくりと燃え始めて、今、信仰の確信の中で燃えている。この燃える思いを証し、「伝道に燃える教団」として、教団の伝道協力を深めて行きたい。

伝道推進室の

目指すもの

伝道推進室

Q&A

Q&A 1

伝道推進室とは何ですか？

伝道推進室は、教団伝道委員会の下に設置されている機関です。その使命は、「教団が伝道に進んで取り組み、教団内の諸教会の伝道の進展に寄与する」ことにあります。言い方をかえますと、伝道推進室は、これまで教団として実施できずにいたさまざまな伝道のわざを、思い切って具体的に展開してゆくことを目指しています。

Q&A 2

伝道推進室はどのように設置されたのですか？

伝道推進室は、2012 年 7 月、常議員会の決議によって設置されました。常議員会は、伝道方策検討委員会によって提出された『基本提言』（9 項目）を受け、その最重要提言である「伝道推進室の設置」を、神の御旨と信じて決議するに至りました。伝道推進室の設置は、教団の歴史の上で、きわめて大きな意味をもつものだと思います。

Q&A 3

伝道委員会では十分ではないのですか？

伝道推進室の設置には、伝道委員会における学びが背景にあります。伝道委員会は、他教派教団の伝道体制について学び、教団の伝道体制を検討しました。その中で、予算、継続性、権限と責任をもつ「伝道局」のような部署が、教団の中に必要であることを認識するに至りました。それを受け伝道方策検討委員会は「伝道局」構想を検討、伝道推進室設置を提言しました。

Q&A 4

何故、伝道局でなく、伝道推進室なのですか？

伝道局の構想の実現のためには、教団全体の機構改正が必要となります。そのためには、多岐にわたる準備が必要ですし、教団内諸教会による賛同を得る必要があります。これからじっくりと検討してゆくべき内容です。伝道推進室は、将来の伝道局構想を視野に入れつつ、現在の伝道体制を生かして、伝道の推進を目指すものです。

Q&A 5

伝道推進室の組織はどのようなものですか？

室長 1 名、委員 3 名、幹事から構成されます。初代室長は、石橋秀雄教団総会議長です。また、「伝道委員会の下に」との位置づけから、委員 1 名は、伝道委員会から派遣するということになっています。しかし、さまざまな活動を展開するために、この人員では到底困難です。そこで、さまざまな活動に合わせて協力委員を選任し、ご奉仕をお願いしています。

Q&A 6

伝道推進室の財政はどうなっていますか？

伝道推進室の会議費のために、予算 100 万円が計上されています。しかし、すべての活動の実行費用は教会献金、個人献金、その他の献金によって、お支払い頂くことになります。教団内諸教会に年間 500 万円の目標で献金依頼をいたします。伝道推進室の活動が主に祝福されれば、必要な献金も満たされると信じております。

Q&A 7

伝道推進室の基本方針について教えてください。

伝道推進室は、まず『伝道推進室基本方針』作成に取り組み、常議員会にて承認して頂きました。最も大切な内容は、「『日本基督教団信仰告白』と『日本基督教団教憲教規』に基づく信仰の一致をもって」活動するということです。伝道推進室は、日本基督教団の諸教会の共通基盤を大切にして、すべての伝道推進のわざを進めてゆきます。

Q&A
8

伝道推進室の活動内容を教えてください。

常議員会にて決議された議案書に記されている活動内容は以下のとおりです。『伝道方策の検討、伝道キャラバンの企画・実施、伝道トラクトの作成、伝道礼拝・集会等の講師派遣、諸教会の伝道相談への対応、教師・信徒の研修等。』伝道推進室では、これを骨子とし、さらに伝道方策検討委員会からの申し送り事項も含めて、活動内容を整理しました。

Q&A
9

活動はさらに広がるのですか？

発足記念大会（東京・大阪）において、伝道推進室長挨拶により提示された具体的活動は、以下のとおりです。

1. 日本基督教団の伝道の推進

ー伝道運動、信徒運動、献金運動ー

- ①各教会の伝道の推進に協力
- ②伝道パンフレットの作成と配布
- ③伝道集会への講師派遣
- ④伝道ポスター・ちらしの作成と配布
- ⑤伝道推進協議会の開催

2. 青年伝道の推進

- ①全国青年大会の開催
- ②青年リーダーの養成（諸外国教会との青年交流）
- ③献身者を起こす修養会等の開催

3. 学校伝道の推進

- ①キリスト教主義学校との連携を図る
- ②学校伝道の祈りの日を設ける
- ③教会幼稚園・保育園と連携し教会学校充実を図る

4. 日本の伝道に献身する神学生、教師への支援

- ①神学校入学金等、献身者への援助を行う
- ②伝道キャラバンの実施
- ③教師検定規則第3条6項による教師の研修会実施

Q&A
10

第1の柱の内容から教えてください。

日本基督教団の伝道の推進は、伝道運動、信徒運動、献金運動であると記されています。石橋秀雄教団議長は、「伝道に熱くなる教団」「伝道に燃える教団」と訴えておられます。それは、伝道が光栄なる使命であることを認識し、牧師と共に信徒が生き生きと祈り奉仕し、伝道のための献金が感謝と献身のしるしとして献げられる、そのような教会の姿に他なりません。

Q&A
11

信徒運動はどのように展開するのですか？

伝道は牧師だけでなく、信徒の働きにおいても進められます。全国的に信徒運動の展開がなされる必要があります。自主活動団体としての全国婦人会連合は、教団内にある尊い信徒運動です。東京信徒会をはじめ、地域の信徒の集いが結集し、かつて存在した「全国信徒会」の再結成をしようという動きもあります。伝道推進室は信徒運動の展開を応援いたします。

Q&A
12

各教会の伝道の推進のための働きとは？

伝道委員会で「伝道アイデアパンフレット」が作成されました。教団内の100教会にアンケートを行い、伝道についての工夫やアイデアを集めて冊子にしました。このことで学んだことは、各教会の伝道の取り組みに学び合う素晴らしさです。いろいろな発見があります。伝道推進室は、そのような情報を集めて、よきものを各教会に提供できればと考えています。

Q&A
13

伝道サポートグッズについては？

各教会で豊かに用いて頂けるような、伝道トラクトや伝道用冊子を作成したいと思います。また、教会案内、伝道礼拝、伝道集会のために、ポスターやちらしの作成についても、応援できるとよいと思います。インターネットを利用して、伝道に利用できるデータを、ダウンロードできるようにするなど、活動はいくらでも広がります。専門家の協力が必要です。

Q&A
14

講師派遣についても具体化されるのですか？

すでに常議員会において、「伝道礼拝・伝道集会等への講師派遣のガイドライン」が承認されました。間もなく、諸教会への正式なご案内がなされます。対象教会は、原則として、主日礼拝の平均出席約30名以下の教会といたします。但し、地域の複数教会が合同して集会を行う場合には、それらの諸教会を対象とすることもできます。

**Q&A
15****講師派遣の費用も支援して頂けるのですか？**

伝道推進室が、講師謝礼、交通費、宿泊費等を負担いたします。ご希望であれば、案内のちらし作成やその費用についても、ご相談に応じて応援させて頂きたいと思います。各教区に伝道推進室の協力委員がおりますので、申し込みの際にご相談して頂くことになります。申し込みを頂いた後、伝道推進室で審査し、応援を決定させていただきます。

**Q&A
16****教区とのかかわりはどうなりますか？**

教団内には、教区（地区・分区・支区も含めて）における伝道応援体制、互助体制が機能している地域があります。それでも、教団内には支援を必要としている諸教会は多いと思います。伝道推進室で、ある教会への伝道応援を決定いたしますと、所属教区に報告することいたします。沖縄教区にも伝道応援を要望する諸教会がありますので、対応をはじめます。

**Q&A
17****その他の伝道応援も考えていますか？**

これから伝道推進室で模索していきます。伝道の労苦や喜びを分かち合い、励ましあう伝道推進協議会を開催すること、諸教会の伝道計画や伝道企画に関するご相談に対応する窓口を設置し、経験豊富な隠退教師にご奉仕頂くことなどを考えはじめています。これから、諸教会からの要望を聞かせて頂けるとありがたく思います。

**Q&A
18****第二の柱は、青年伝道の推進ですね？**

青年伝道は、伝道における大きな柱です。教団は、1969年10月に開催予定であった全国教会青年宣教会議が中止されて以来、実に44年間も青年大会を行うことができていません。教団は第32回教団総会（2000年）で、「日本基督教団は、21世紀に向けて青年伝道の使命に全力を注ぐ件」を可決しています。今、それを実質化する必要があります。

**Q&A
19****青年大会を行うのですか？**

2014年夏に「教会中高生・青年大会」を開催する準備が、伝道委員会、教育委員会、伝道推進室の協力のもとに進められています。その背景には2012年夏に青年伝道を担う有志団体が結集して「教会中高生・青年大会2012」を開催し、270名の大会となったことにあります。実現すれば、教団では45年ぶりの青年大会となります。

**Q&A
20****青年大会はどのような目的で行われますか？**

目的は主に二つあります。ひとつは、日本伝道の幻に仕えるために、次代の教会を担う若き器が育てられるためです。もうひとつは、日本伝道の幻に仕える伝道者が起こされるためであります。さらに4年後の2017年に宗教改革500年を迎えます。その年に、プロテスタント教会が結集して、青年大会を開催できれば、素晴らしいことであると考えています。

**Q&A
21****諸外国教会との青年交流については？**

今年の夏、ユースミッション2013として「日米教会青年交流」「日独教会青年交流」の2つが行われました。また、教育委員会が担ってきた「台湾ユースミッション」もあります。青少年にとって、諸外国教会の同世代の若者との出会いと交わりは、信仰の新たな目覚めにつながります。ユースミッションを継続するため、リーダーを育成する必要もあります。

**Q&A
22****第3の柱は、学校伝道の推進ですね？**

日本伝道の歴史を振り返るとき、キリスト教主義学校、教会幼稚園・保育園の働きは、きわめて大きなものであったと言えます。その存在と働きによって、多くの日本人が聖書を読み、祈りや讃美に触れてきています。日本の諸教会が伝道推進のために、キリスト教主義学校、教会幼稚園・保育園との連携を再認識し深めることは大切なことです。

**Q&A
23****学校伝道祈りの日とは？**

日本基督教団の正式な位置づけによって「学校伝道祈りの日」を設け、諸教会の主日礼拝で、学校伝道のために祈りを合わせることができれば、という願いであります。諸教会が祈りのうちに、キリスト教主義学校や教会幼稚園・保育園とのつながりを深め、同時に学校伝道を担うキリスト者の育成のためにも祈りつつ、日本伝道の推進を目指したいと思います。

**Q&A
24****教会幼稚園・保育園の課題も大切ですね？**

最近では伝道推進室主催の緊急研修会として、幼保一体化を含む『子ども・子育て新システム』に関する学習会が、東京・西宮、札幌の3か所で行われました。教団内の教会幼稚園・保育園にとりまして、きわめて重要な関心事であるとともに、教団全体がきちんと把握する課題でもあります。これも伝道方策検討委員会より申し送られた内容のひとつです。

**Q&A
25****第4の柱は、神学生、教師への支援ですね？**

教団の最も大切な働きは、御言葉に仕える教師を立てることです。さらに、教師が神の召しに相應しく奉仕することができるように継続的に支援する務めも、同じように大切です。これらのことは、主に教師委員会と教師検定委員会が担っています。伝道推進室は、両委員会とよく連携しつつ、神学生への支援、教師への支援を具体的に実施していきます。

**Q&A
26****夏に教師研修会が行われましたね？**

有志団体である日本伝道会が実施していた教師研修会を伝道推進室が受け継ぎました。教師検定規則第3条6項による教師（受験生含む）、神学校を卒業し補教師となって5年以内の教師を対象とする研修会です。特に前者の教師を対象とした研修会は、これまで教団にはありませんでしたので、新たな取り組みであると言えます。

**Q&A
27****伝道キャラバンとは何ですか？**

教師リーダーとともに神学生や青年たちが、ある地域の諸教会を訪問し、伝道のわざをお手伝いさせて頂くものです。これは、訪問する諸教会の伝道を応援するわざでもあります。参加する若者たちに伝道の喜びを味わう機会を提供するものです。諸教会の要望に応じて、伝道礼拝、伝道集会、讃美集会、こども会などを、計画することができます。

**Q&A
28****伝道方策の検討についてはどうですか？**

教団は伝道する教会です。伝道空白地への開拓伝道を常に検討すべきです。逆に教会の閉鎖や合併の問題も引き受けなければなりません。牧師の人事のあり方も、日本伝道の大きな視点から考えてゆかねばなりません。また、キリスト教界のさまざまな団体との連携の強化も必要です。伝道推進室は、宣教研究所と連携し、伝道方策の検討を課題としていきます。

**Q&A
29****広報活動はどのようにするのですか？**

本誌が伝道推進室報の第1号として発行されました。年4回発行する予定です。室報には、集会案内、活動報告、献金報告を掲載していきます。教団新報、教団HPにも同様にさまざまな情報を掲載いたします。伝道推進室の取り組みが有意義なものとなりますように、広報活動においても努力と工夫をかせねていきたいと思います。

**Q&A
30****最後に諸教会へのアピールを！**

伝道推進室の歩みは、スタートをしたばかりです。日本基督教団が「伝道に熱くなる教団」「伝道に燃える教団」となるために、そして、全世界の伝道という大きな使命に私たちの日本を主に捧げるために、祈りを熱くしていきたいと思います。繰り返しのお願いになりますが、諸教会の皆様の祈りと献金によるお支えが必要です。ぜひよろしくお願いいたします。

伝道推進室の目指すもの



発足記念大会

《東京◆銀座教会》

Easter 2013

3.31 日

18:00~21:00



▲銀座教会での礼拝、当日の看板(左)

2013年3月31日、銀座教会を会場に伝道推進室の発足記念大会が開催されました。復活祭の聖日の夕べに、復活のキリストの伝道命令を想いつつ伝道推進室の発足を祝う恵みを満たされました。

開会礼拝では、小島誠志師（久万教会）がヨハネによる福音書21章1節～14節を説教され、甦りのキリストの働きに仕える伝道のわざは、どんなに失敗に満ちているように見えても、神の国において全てが実りへ導かれるのであり、「網は破れていない」という確信を導かれました。

石橋秀雄教団総会議長の挨拶により伝道に燃える教団の形成への決意を共にし、前教団総会議長の山北宣久師のユーモア溢れる祝辞によって励まされました。

東京神学大学コーラス部・OB・OGによる讃美歌奉唱によって、次代への希望を強められた後、東京神学大学学長・近藤勝彦師により、「救われた命を伝道のために」と題する講演が行われました。奇しくも近藤学長の任期最後の日の夕べに、熱く伝道の祈りを語られ、伝道する教団の形成について大切な課題を共に確認しました。

伝道推進室の発足が日本基督教団を愛し、頭であるキリストに仕えた全ての牧師、信徒の祈りの結実であることを想わされ、復活され、共におられる主イエスの祝福を満たされた夕べとなりました。

東京／大阪 発足記念大会報告

三田教会牧師 星野 健



発足記念大阪大会

《大阪教会》

2013 summer

7.13 土

14:00~16:30



▲大阪教会での礼拝、小島誠志牧師(左)

2013年7月13日、大阪教会を会場に伝道推進室発足記念大阪大会が開催されました。東京での大会に続き小島誠志師が、開会礼拝でルカによる福音書15章1節～7節を説教されました。わたしたちの福音伝道が、失われた羊を「見つけ出すまで探す」神の御心によって起こされること、それはキリストの十字架に至る受難の道にあらわされた御心であることを明確に示されて、この大会が行われました。

続いて石橋秀雄教団総会議長が挨拶され、エマオでの道で弟子たちの心が燃えた、その心で伝道に燃える教団の形成への決意を新たにされた後、向井希夫大阪教区議長が挨拶され、地方の困難な状況に向きあう教会を支えることによって、真に伝道の推進がなされるという大切な課題を示されました。続く小林克哉教団伝道委員長の挨拶によって、ペンテコステの日のように「祈り」によって、この日燃やされた火が広がっていく道を力強く示されました。

東京での大会に引き続き近藤勝彦師により、「ゴルゴタの主の十字架と私たちの洗礼」と題する講演が行われました。伝道する教団の形成について課題を確認しつつ、ゴルゴタの主の十字架の出来事にこそ、わたしたちの信仰の喜びと伝道の意欲の源があることを示されました。

終わりに7名の方による祈りが捧げられ、東京と大阪で行われたこの大会が、わたしたち日本の教会の一つの祈りの発露であることを想わされ、感謝に満たされました。

日本基督教団が真実にキリストの教会の教団であるためには、教団内の諸教会が主イエスの福音、そして主イエスとともに開始されている神の国の福音を伝道することを支援しなければなりません。そのためには、教団信仰告白と教憲・教規を明確に保持し、その営みのもとに教会の設立と運営を支え、正しく教師を立て、その教會的、伝道的奉仕を助け励ますことが、日本基督教団にとっての本質的な使命です。

いま喫緊の課題は、伝道意識をどう回復し、伝道のために活動する信仰の体質、教会生活の体質をどのように強化し、改善していくかという問題です。この喫緊の問題と取り組むには、根本にあって教会生活における「伝道の熱意」が取り戻されなければならないでしょう。テモテへの手紙二では「キリスト・イエスの出現とその御国とを思いつつ、厳かに命じます」と言われ、「御言葉を宣べ伝えなさい」と言われます。御

言葉を宣べ伝える伝道を別にして、キリストの来臨、そして御国の到来に備える道はないのです。

信仰生活の中に「伝道に用いられる喜び」があることを知らされることは素晴らしいことです。一人の人が信仰を与えられ、神を信じて洗礼を受ける歩みに祈りや証を通して関係することは、私たちの信仰をも豊かで確かなものにします。「救われた命」と「伝道のため」は切り離せません。

伝道は何も大きなことをすることから開始されるものではありません。偉大な救いの業は神ご自身がしてくださっています。私たちなりに伝えるべく、用いられるように祈ります。私たちはただ世界史の中に流されるように生きているではありません。世界史の中に生きていますが、その中で救済史に生かされ、用いられているのです。救済史があってはじめて世界史は意味を持ち、その目標も持つのです。

前東京神学大学学長
近藤勝彦氏



『救われた命を伝道のために』

テモテへの手紙二 第4章1～5節

伝道講演《要旨》 (文責/星野健)

『ゴルゴタの主の十字架と私たちの洗礼』

ローマの信徒への手紙 第6章1～11節

伝道は人々を主イエス・キリストに結び、人々が主のものとされて神との和解に入れられることを願ってなされます。従って伝道は、人々が洗礼を通して主のものとされることを目指します。そのようにして伝道は、洗礼によって人々がキリストに加えられ、唯一のキリストの体が建てられ、成長することを期しています。その意味ではキリストの体である教会の形成が伝道の目標でもあります。御国のまったき到来をまちつつ、教会は伝道に仕え、伝道の担い手として集められ、派遣される群れです。その意味で教会は伝道のための群れと言うべきで、伝道しない教会は、礼拝しない教会と同様、真の教会ではないとも言うべきでしょう。

教会は世界政策の集団である以前に、どんな時代にも主の福音を宣べ伝え、「あの方は私たちみなのために死なれた」と伝え、「生けるものと死ぬる者の主となられた」と伝えなければなりません。

洗礼によって主のものとされ、天に本国を持つものとされました。主が私たちのためにゴルゴタの十字架で死んでくださったからには、死に対する恐れは私たちにはありません。私たちは、救いに入れられたことを喜び、どんなときにも根本において感謝しています。それが私たちの信仰による喜びであり、伝道意欲の根本です。ゴルゴタの主の十字架の恵みを深く知り、洗礼によってそれにあずかる幸いによって、私たちの福音主義キリスト教の信仰をもっと生き生きとされ、もっと力強くされ、もっと大きく宣べ伝えるものとされたいと思います。

キリストの教会は、本質的に「伝道する教会」です。私たちは洗礼を受けさせていただき、十字架の主の勝利による赦しに入れられ、救いに入れられました。救われた喜びをもって伝道意識を高められ、日本基督教団「伝道推進室」の発足を喜びたいと思います。

伝道しない教会は滅びる

小金井緑町教会信徒 平田節也

「伝道に熱くならない教会は滅びる」と御挨拶された石橋教団議長の「熱い思い」は私たちの胸を突き刺しました。最近「教会の高齢化」という言葉と共に、それによって教会はどんどん衰退していくばかりだと耳にします。高齢化は、本当にマイナスなのでしょうか。高齢者の体験から語られる言葉には長い人生を生きてきた知恵があり、若い人たちを励ます力があります。教会は信仰に生きる年長の方々（高齢者）をとおして、教会の内外に、そして若い人たちに語るべき言葉をもっています。その経験や言葉を必要としている若い人たちが、多勢います。それが今の教会がもつ可能性の一つであると信じます。「伝道しない教会は消滅する」と訴えられた石橋議長の御挨拶は驚きの瞬間でした。礼拝によつて熱くされた礼拝者が証人として地域社会に出ていく、この様な生き生きとした礼拝共同体を形成していくことこそが「伝道に熱くなる教会」です。言い換えれば教会は伝道するものである。私た

ちは「伝道に燃える教団」の真のリーダーを求めていたのです。伝道推進室はより具体的な伝道のビジョンを示されました。私たちは、それを実践するのみです。

東京神学大学前学長の近藤先生から「救われた命を伝道のために」という講演をいただきました。真の教会は礼拝する教会であり、伝道なくして教会もキリスト教ありません。キリスト教はこの意味で徹頭徹尾「伝道の宗教」なのです。伝道とは何も大きなことをすることから始まるものではありません。偉大な救いの御業は神で自身がしてくださるのです。クリスチャン全てが小さな伝道を始めたら、どんなに素晴らしいことが起こることでしょう。「伝道に燃える教団」として伝道推進室が発足した記念式典に参加し、わたしの40数年の信仰生活の中でこんなに心が熱くなったことはありませんでした。

▲山北宣久牧師(上)、東神大コーラス部(下)

▼石橋秀雄教団議長(左)、小林克哉伝道委員長(中)、全体(右)

大阪大会に参加させて頂いて

大和キリスト教会信徒 上田充香子

私の教会では毎週週報の報告欄に漢字がいっぱい並んでいる会や、会議の名前がたくさん書かれます。いつもその漢字達をあまり意味も分からずに見つめています。今回の日本基督教団伝道推進室発足記念大阪大会というもどのような大会なのかあまり分からなかったのですが、礼拝のお説教をしてくださるのが小島誠志先生であったことと、講演してくださるのが近藤勝彦先生という豪華キャストのお話を1つの大会で一度に聞ける！という魅力に惹かれて参加させて頂きました。

大会が始まってまず思った事は参加者の少なさです。土曜日の午後であり、会場となっている大阪教会が広いので感じたのかもかもしれませんが、いつもなら説教集を読む事でしか聞けないような先生方から、直接、生で神様の力強い御言葉が聞けるといのに、この人数で独占してしまうのはあまりにも勿体ないな～と感

じました。しかし、「ここで聞いた事をそれぞれの教会に帰ってたくさんの人に話して下さい。そうすればここにいる人が何人であっても、ここで受けた恵みは何倍にも広がります。そして1人1人が日本への伝道について祈ってください」という先生の言葉を聞きました。

それ迄の私の生活の中では、教会や学校、バイト先など自分の身近にいる人達への伝道については祈る事はありませんでしたが、「日本の伝道」と言われると、どこか遠くに感じてしまい、自分1人でこの事について祈る事はありませんでした。ですがこの日、大会から家に帰って、初めて声に出して日本の伝道について神様に祈りました。1人で祈りましたが、これは1人で祈っている祈りではなく、多くの人の中の大きな祈りの群れに加えられている祈りなのだという確信をもって安心して祈る事が出来ました。1回だけでなくこれから祈る事を忘れないように神様に祈っていきたいと願います。



教会幼稚園・保育園の将来を考える

一昨年、伝道方策検討委員会は、国の幼保一体化法案を作成したことを受けて、教会幼稚園・保育園がどのように対応すべきかを緊急課題として「幼保一体化と幼稚園・保育園の在り方を考える会」をいたしました。その後、3党合意を受けて法案の手直しが行われ、情報が錯綜する中、教会付属の幼稚園・保育園が伝道課題としてどのように取り組んでいくべきかを共に考えたいと、情報の共有と実際の取組例を挙げての幼・保一体化に向けての「子ども子育て新システム」緊急研修会を4月には教団で、7月には西宮と札幌で開催いたしました。講師には、今回の新制度の作成にもかかりました岡村宣牧師（矢吹教会、全国認定こども園協会理事）、取組例として鈴木信行兄弟（教団信徒、聖愛幼稚園理事長）、岸憲秀牧師（千葉本町教会）がご奉仕くださいました。

新制度は、再来年4月より始まりますが、園児募集を考えれば、この秋にも各園が今後の方針を決めなければなりません。地方の役所ですらどう対応してよいのか混乱している向きもありますが、それ故にこそ教会幼稚園・保育園として行政以上に新制度について精通しておかなければならないことと思います。必要もあって、各地での反応は大きく、札幌での集会は、北海教区との共催でさせていただきましたし、西宮での集会には教区を超えて多くの方々が集ってくださって、いずれの集会も時間を超えての質疑が行われました。

教団として少しでも幼児教育に携わる方々のお役に立てたのなら感謝と思っています。手直しに手直しを重ねた新制度ですが、給付面を除いて制度としては、ほぼ固まったようです。教会幼稚園・保育園の上に神の祝福を祈ると共に、集う幼子と保護者の方々の救いを願ってやみません。

尚、4月に行われた研修会のDVDができています。ご希望の方は教団に申し込んでください。代金は2,000円です（4月に参加された方々には、参加費に含んでいますので無料です）。

幼・保一体化に向けての『子ども子育て新システム』 緊急研修会開催

4月2日 東京 ▶ 教団会議室
7月15日 兵庫 ▶ 西宮教会
7月23日 北海道 ▶ 札幌北光教会(北海教区共催)



講演要旨

「この丘を超えて新たな地平に」 ～新たなシステムとキリスト教保育施設～

矢吹教会牧師 岡村 宣

バブル崩壊後、グローバルな経済の動きの中で、国内ではコスト削減が図られ、派遣やパート就労などの不安定な雇用の状況が増加し、貧困化が進んでいる。子どもを産み、育てるという営みも、女性の自己実現の保障という大切な事柄と相まって、いつしか重い負担感へとつながり、少子化に拍車をかけている。不安定な雇用による貧困化も影響して、結婚できない人々を多く生み出すこととなり、結果として、第2次ベビーブームで生まれた人々が親になる時期にあるべき第3次ベビーブームはみごとに消え失せ、少子化は加速度的なスピードで進むこととなった。

いわゆる1.57ショックと言われる女性の合計特殊出生率低下をふまえた人口白書が大きな議論を呼んで24年。日本は、これまで経験しなかった困難な時代を歩んでいる。民主党政権の3年間に見据えてきた将

来は、自民党政権になっても変わるはずもなく、今、手を打たなければ、より大きな困難を将来に先送りすることとなる。

保育制度においては、自民党による保育制度改革の時代から、幼児虐待の実態などを踏まえて、保育は「必要性」によって提供されるべきとの方向性が示されると共に、待機児童対策を契機に幼保の機能を併せ持つ認定こども園制度が運用されることとなった。

本来、子どもの育ちは、家庭の事情に左右されることなく等しく保障されるべきもので、その上で、家庭の状況の違いや保育時間の違いへの配慮がなされるべきではないか。いわゆる「認定こども園制度」は、筆者にとってはそんな疑問の解決の糸口となった。今、国の制度や保育現場において確認され、変えるべきものを変えることが求められているのではないか。

一方で、変えてはならないものが確かにある。変えてはならないものへの希求は、寺子屋など、昔の教育へのあこがれとして現れ、主張されることがあるが、歴史は、逆戻りできない。家庭や地域の子育て力が無くなったと言われる社会に、新しい型枠、しかも柔軟

で地域を新たに生み出していくような道筋をもったものが求められる。実は、そういう営みこそが、変えてはならないものを守る力を持つのではないか。

ねじれ国会の状況の中、新たな子ども・子育てシステムが3党合意により「子ども・子育て関連3法」に修正されて成立した。国は、今年4月に子ども子育て会議を設置し、具体的な検討を加速した。事業の実施主体である市町村は、独自の事業計画策定への取り組みを開始する。各市町村が独自に検討することから、市町村による格差が生じることも踏まえ、私たちがあらためて「地域に根差す」ことへと目を開かれ、保育内容、利用、運営の3つのパブリックを保障し守る場所へ、意識を高められるチャンスとしたいものだ。

制度を詳しく説明する紙面はないが、給付が個人給付であることから、認可外施設や102条園などにも、子どもが利用した施設（機能）に公費が入ることとなることを覚えていただきたい。どの施設を利用しても、そこに公費が使われ、すべての子どもの最善の利益が守られる形となる（基準、単価等は今年度中の検討）。

幼稚園は①これまで通りの私学助成の世界で生きるか、②給付の枠の中の幼稚園となるか、③幼稚園型認定こども園として長時間保育に対応するか、④幼保連携型認定こども園として総合的な機能をもって地域再生の営みを開始するかを選択が求められる。入園料や保育料が一般的な額のほとんどの園は、給付の枠の中で、できれば保育機能を持つ（幼稚園型、幼保連携型）認定こども園となる道を選択することが望ましいだろう（基準をクリアして1～3号認定の子どもに対応）。

一方保育所は、給付の枠の中でもこれまで通り市町村の委託事業となるが、認定こども園としてより主体的な運営を考える道もあるのではないか。

安心こども基金による施設整備の期限や、制度開始時におけるいくつかの特例措置も考慮にいれながら、2015年4月をどう迎えるか。教会関係施設は主のところがこの地になるように祈りつつ、置かれた状況における最善の選択を模索することが求められている。

幼保一体化緊急研修会 に参加して

南三鷹教会牧師・フィッシャー幼稚園園長
吉岡喜人

政府が進めてきた幼保一体化（一元化）政策は、教会幼稚園の将来に大きな影響を与えるであろうことは予測できても、どのように影響するのか、幼稚園は存続できるのか、全国の教会幼稚園は不安の中に日々を過ごしています。幼稚園の経営責任者は誰しも情報をできるだけ集めたいと思っており、4月初めという新学期準備の忙しい中であるにもかかわらず多くの出席者で会場は埋まりました。

冒頭講師の岡村宣牧師から、今地方で起こっている幼稚園経営危機問題は、数年後の都会の幼稚園の姿ですという言葉に、会場には緊張が走りました。2人の講師から福島県と山梨県において幼稚園を認定こども園に移行した事例を伺いました。

幼稚園は伝道の最前線です。そのことをご理解いただいて伝道推進室がこのような研修会を開いて下さったことに感謝しています。ただ、あまりにも唐突であったこと、また教団には全国教会幼稚園連絡会があるので、是非連携をとっていただきたいと思います。

千歳栄光教会牧師・北海教区書記
ト部康之

北海教区は「幼稚園運営に関する協議会」を開催して昨今の教会幼稚園を取り巻く紆余曲折する行政の方針とその対応について学ぶこととし、2012年3月には岡村宣牧師をお招きし、その時点での学びを深めることができました。

今回、教団伝道推進室が同牧師を講師に立てて、札幌にて緊急研修会を行なうことをお聞きし、共催をお願いしました。

以下はある出席者の感想の抜粋です。
「今回研修会で知識を得たことは、私たちが早急に移行について結論を出すことでした。大事な自治体との協議は地方版子育て会議の設置の際、積極的に関わりなさいとも勧められました。また、園舎新築・耐震化工事等の設備投資については、投資が必要な幼稚園は、早く認定こども園の認可を頂き、安心こども基金を利用できるようになる事。（中略）過疎地で子どもが少ない地域でないことが前提ですが、『借金をするのを怖がらない事。園児さえいれば、新しい保育施設を持てば必ず返すことが出来る』どのお話は大変参考になりました」。



▲講師：鈴木信行氏

▲講師：岡村宣氏

夏期研修会

「伝道者、牧会者として立つために」



プログラム

8月12日(月)

12:30 受付 13:00 開会礼拝 説教:小島誠志(久万教会)
14:30 講演1「贖罪信仰に立つ伝道者」講師:石橋秀雄(教団総会議長)
16:30 講演2「牧会とは何か」講師:小泉健(東京神学大学准教授)
19:00「牧会夜話」～永遠のお取り仕切り～高橋力(東北教区巡回教師) 20:00 夜の礼拝 説教:小島誠志

8月13日(火)

9:30 朝の礼拝 説教:小島誠志
10:30 講演3「牧会とアイデンティティ」講師:朴憲郁(東京神学大学教授)
13:00 講演4・5「教会法と世俗法」「法的解決と牧会的解決」講師:深谷松男(法学者・金沢大学名誉教授)
16:30 ケース・スタディ(1) 発表:参加者 19:00「牧会夜話」～忘れられない役員たち～小林眞(遠州教会牧師)
20:00 夜の礼拝 説教:大隅啓三(隠退教師)

8月14日(水)

9:30 朝の礼拝 説教:大隅啓三 10:30 ケース・スタディ(2) 発表:参加者
11:30 閉会礼拝 説教:大隅啓三



夏期研修会を 恵みのうちに終えて

スタッフ／高井戸教会牧師 七條真明

8月12日(月)～14日(水)、東京神学大学を会場として夏期研修会が行われた。教団の教師検定規則第3条(6)による教師および准允を受けて5年以内の教師を対象とする研修会である。

今回のテーマは、「伝道者、牧会者として立つために」であった。「贖罪信仰に立つ伝道者」と題してなされた石橋秀雄教団総会議長による講演をはじめ、東京神学大学から小泉健先生、朴憲郁先生の2名の神学教師による牧会論に関わる神学講演、法学者の深谷松男先生による教会法と世俗法に関する講演がなされた。

夕食後には「牧会夜話」として、長く会津伝道に携われた高橋力先生、遠州教会の小林眞先生それぞれによる伝道者、牧師としての豊かな経験に基づくお話を伺った。開会と閉会、朝と夜の礼拝では、チャプレンとしてご奉仕くださった小島誠志先生、大隅啓三先生による説教がなされた。スタッフである私も、参加者と共に、伝道者・牧会者としての自らを省みさせられる豊かな時を過ごさせていただいた。

参加者は18名。互いに知り合い、語り合うために相応しい人数と言えなくもない。しかし、他に類を見ないほど充実した講師陣、チャプレンが揃うこの集会に、同労者である多くの方々にぜひ一度ご参加いただきたい。スタッフとしての強い願いである。

学びて時にこれを習う、 また説ばしからずや

参加者／峡南教会牧師 森 容子

新任地で約半年、神学校等で備えてきた「引出し」に、牧会の実践力となる新たな備蓄が必要と思える頃、タイムリーで濃密な夏期修養会に招かれ感謝でした。

◆小島誠志師説教より罪の染みついた限界ある言葉「水」を、ぶどう酒に変えて下さるお方がある。運ぶ労苦に御手を添え。だから私たちは水を運び続ける。◆大隅啓三師説教よりエスカトス(最後に)女が主と二人だけ残ったことはエクソダツを意味する。出口は主への入り口。◆高橋力師牧会夜話より全身全霊で献げる礼拝(冒険、ドラマ)を全会衆と共に作り上げる努力を。◆小泉健師講演より「慰」の字は心にアイロンをかけるの意味。聖徒の交わりとは、互いに罪を告白し赦し合う交わり。◆朴憲郁師講演よりルターは、殆ど無言の幼年期、修道院での引きこもり後、神の代弁者としての自己を解き放ち、シェークスピア並多弁に。◆深谷松男師講演より「戒規」は裁くためではなく、悔い改めに導くためにある。◆小林眞師牧会夜話よりイエス様から知恵を得た者は、福音の使命を実現する他ではなく、どん底に落とされてもそこを突き抜けることができる。◆石橋秀雄議長講演より自分の生活は礼拝なしには成り立たない、という信徒に養われた。

(野村萬斎風に) ワーワーハッハッハッハーアと心底から。

Information

教会中高生・青年大会 2014

ぜひ若者たちをこの大会へ！

若い魂がキリストと出会い、日本各地の同世代の仲間と交わるにより、洗礼へと導かれ、主に仕える者とされ、さらに伝道献身者が起こされ、主の名によって立ち上がり歩み始めますように。

♠ 主 題 「イエス・キリストの名によって
立ち上がり歩きなさい」

♠ 日 時 2014年8月19日(火)～21日(木)

♠ 場 所 (財)日本YMCA同盟 国際青少年センター 東山荘
(静岡県御殿場市東山1052)

♠ 講 師 青 年 ▶ 芳賀 力氏(東京神学大学)
高校生 ▶ 深井智朗氏(金城学院大学)
中学生 ▶ 塩谷直也氏(青山学院大学)

♠ 問合せ 日本基督教団伝道推進室

伝道推進室への献金のお願い

日本基督教団伝道推進室が発足いたしました。日米・日独ユースミッション、幼保緊急研修会、夏期教師研修会を実施いたしました。更に各地へのキャラバン、教会伝道応援、教会中高生・青年大会2014を計画しています。伝道推進室の活動は献金によって賄われます。どうぞ、日本基督教団の伝道のためにお献げください。

Information

教会伝道応援、開始します！

伝道推進室は、教会伝道応援として、「伝道礼拝・伝道集会等への講師派遣」を開始いたします。

応援の対象となる教会は、原則として主日礼拝の平均出席約30名以下の教会といたします。但し、地域の複数教会が合同して集会を行う場合には、その諸教会を対象とすることもできます。伝道推進室で、講師リスト、奉仕可能日を提示いたします。

伝道応援を希望される教会には、各教区の協力委員長とご相談を頂き、所定の手続きに従ってお申し込みを頂きます。講師謝礼、交通費、宿泊費等は、伝道推進室が負担させていただきます。

詳細は別紙にてご案内させていただきます。

郵便振替口座
00150-4-338628

日本基督教団
伝道推進室

《伝道推進室基本方針》

日本基督教団は、聖なる公同の教会に連なる福音主義合同教会である。本教団は、簡易信条と公会主義の伝統を継承しつつ、十字架と復活の主のご委託に応えて、日本伝道の幻に仕える。伝道推進室は、伝道委員会のもとに設置された機関であり、『日本基督教団信仰告白』と『日本基督教団教憲教規』に基づく信仰の一致をもって、さらには将来の『伝道局』構想を視野に入れつつ、教団全体における伝道の実践と研究に取り組み、教団内諸教会、諸団体における伝道の推進に仕えるために活動する。



●発行所／石橋秀雄 ●発行日／2013年10月6日

伝道推進室報 No.1

●発行所／日本基督教団 伝道推進室

《日本基督教団事務局内》

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18-31

TEL 03-3202-0541 FAX 03-3207-3918 郵便振替 00150-4-338628

編集後記

suisinsitsu News No.1 をお届けいたします。多くの方々の祈りと奉仕と献金によって、ご覧のように豊かな働きを伝道推進室は展開しつつあります。感謝のほかありません。左記の基本方針に基づきながら、主の御体なる教会の業としての豊かな実りをお伝えしていきたく願っております。次号をクリスマスにはお届けできるように準備しております。お祈り下さい。(広報実務委員会)